

Opinion

**教育の中身は偏差値では見えない。
互いの教育を認め、
リス・ペクトでできる大学と連携したい。**

関東国際高校 副校長
黒澤眞爾

くろさわしんじ ● 1989年韓国嶺南大学大学院修士課程修了。アジア学生文化協会アジアセミナー韓国語主任等を経て、2013年より現職。



大学こそ偏差値だけで

高校や生徒を見てないか

——偏差値ありきの進路指導はしないと聞きました。

本校にはアジアやロシア等近隣諸国の語学を専門的に学べる外国語科があり、韓国語やタイ語などを学ぶ生徒が多数在籍しています。ネイティブ講師による語学授業を3年間受講し、中長期の現地研修も経験します。彼らが高校で身に付けた国際感覚、言語能力は、英数国の学力を測る一般入試では評価できないものです。そのため、「一般入試で進学をしよう」と考える生徒は少数派で、多くが指定校推薦やAO入試を活用して進学します。

そうした背景から、進路指導では偏差値ではなく、本校での学びとの接続性を重視しています。生徒が30人いたら、30通りの個別最適化した進路指導を行っている

ため、多くの生徒は地元の東京にこだわらず、自分が求める学びができる大学に進学します。その結果、例年地方の大学には40人程度、海外大進学者も2019年度には52人に達しました。

——日本版ランキングで注目している点は？

「言語で自分を伸ばしていく」という本校の学びとの親和性が高い大学を見つげるために、私立大の分野別ランキング、特に国際性と教育充実度に注目しています。「高校で学んだことをさらに伸ばせるか」「学生と教員の交流が盛んでホスピタリティがあるか」などを確かめるうえで参考になるからです。例えば本校が教育連携MOU（指定校推薦制度）を結んでいる韓国の釜山外国語大や慶熙大は、学生のケアが手厚い大学です。そういった情報が、教育充実度の数値化でもっと見えてくると参考にしやすいと感じます。

——注目している大学は？

APUや神田外国語大など、これまで生徒に勧めてきた大学が、国際性の上位にあります。また、珍しいアジア法専門の教員がいる関西大の政策創造学部、アジアと太いパイプを持つ実務家教員がいる亜細亜大の都市創造学部には、今後アジアで必要な人材の育成が期待できます。中国・韓国の大学とキャンパスアジア・プログラムを展開している立命館大、2年次でタイ、マレーシアへの留学が必須の青山学院大・地球社会共生学部、ロシア語学科を新設した京都外国語大も注目しています。これらは自分で調べて知ったことですが、高校にはほとんど認知されていないようです。もったいないと感じます。

——大学に伝えたいことは？

「偏差値で大学を見てほしくない」という大学関係者の声をよく耳にします。しかし、大学もまた

高校を偏差値で見えていないで

しょうか？ 偏差値では教育の中身はわかりません。

よって生徒の未来のためには、お互いがお互いの学びを相互評価し、親和性、連続性のある進学を考えることが大切ではないでしょうか。その試みとして今春より、**神田外国語大と東南アジア3言語の教育連携を**始めました。これは互いの教育価値をわかり、リス・ペクトでできる関係をつくれないうまくません。共に補い、伸びていくような大学と今後も連携していきたいと思えます。

関東国際高校

東京都渋谷区 / 外国語科（英語コース・近隣語各コース）、普通科。1学年約360人。国際教育プログラムが特徴で、国内のさまざまな大学だけでなく、海外大へも50人程度進学。